

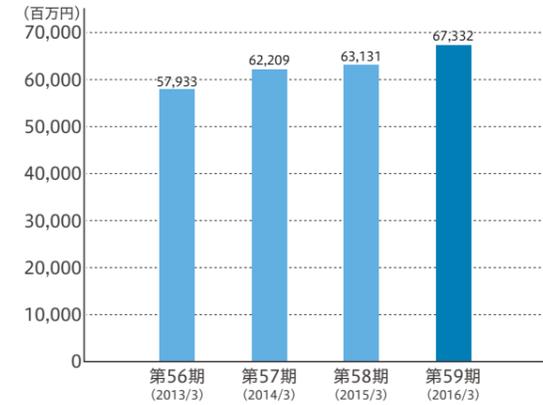
メニコンCSRレポート
2016

Menicon Corporate Social
Responsibility Report 2016

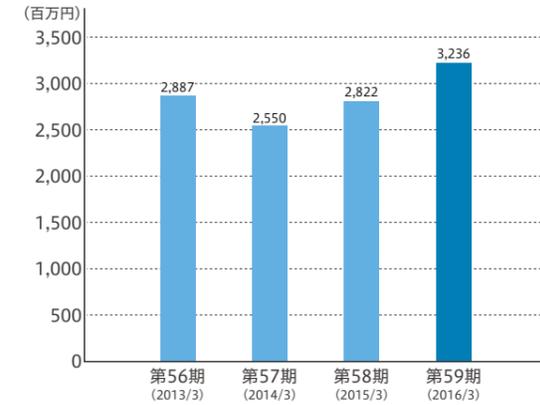


連結業績ハイライト

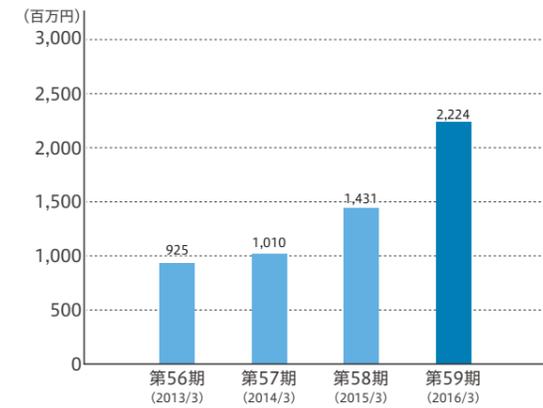
売上高



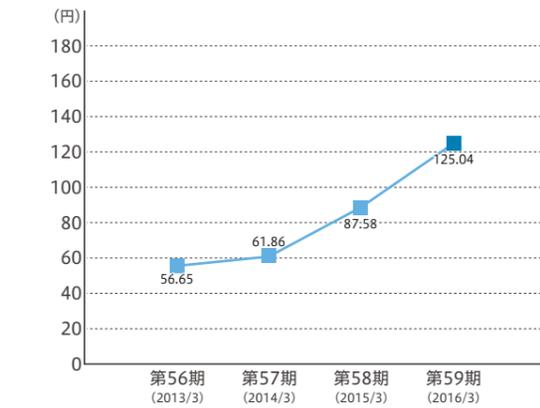
経常利益



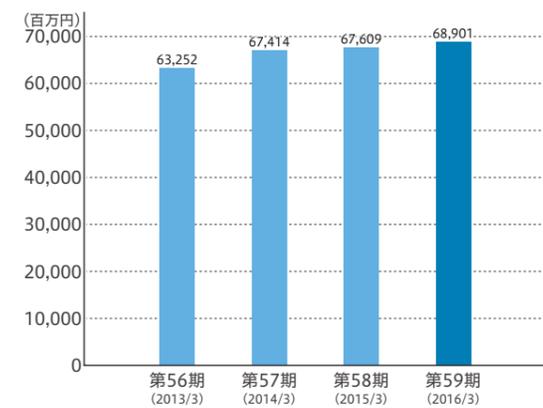
当期純利益



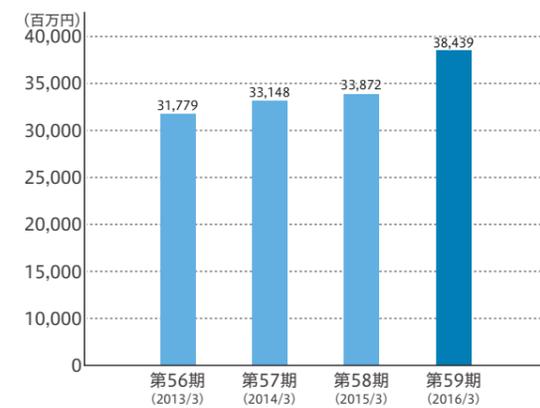
1株あたりの当期純利益



総資産額



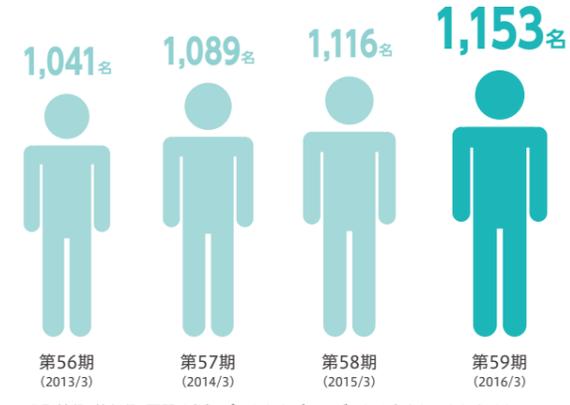
純資産額



CSRインデックス

従業員に関するデータ

●従業員数(単体)



●取締役、執行役、顧問、派遣、パートおよびアルバイトは含まれておりません。

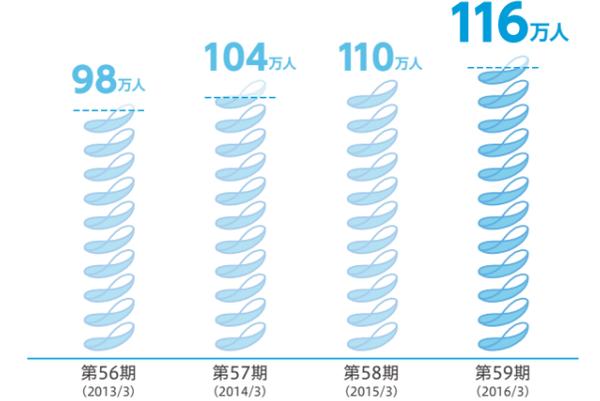
●管理・監督者構成比(単体)



●2020年4月1日時点で、女性の比率を、管理職4.0%以上、監督職20.0%以上とすることを目標としています。

エンドユーザーに関するデータ

●メルスプラン会員数

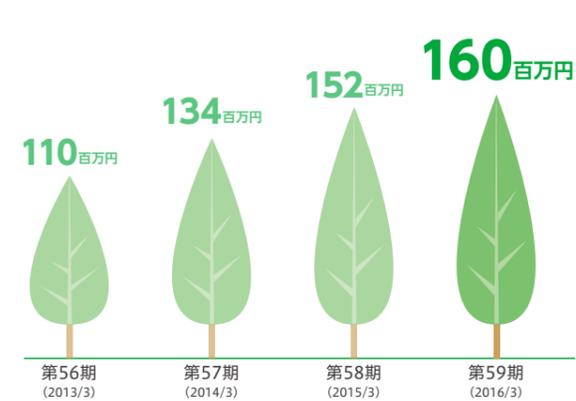


●育児休暇取得者数(単体)

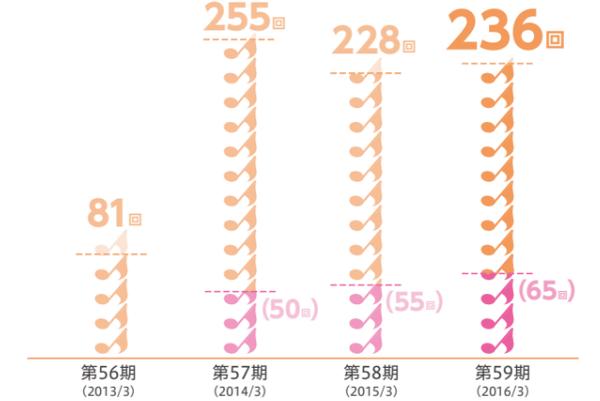


社会に関するデータ

●環境関連ビジネス売上高(単体)



●HITOMIホールでのイベント開催数



●HITOMIホールは、2013年6月に完成したため第57期から本格的に稼働しました。括弧内の数値は、当社企画によるイベント開催数です。

トップメッセージ

人にも動物にも環境にも優しい地球企業であり、
社会に役立つ製品とサービスの提供を通じて、
社会の持続可能な発展に貢献していきます

株式会社メニコン
代表執行役社長

田中英成



メニコンが考えるCSRとは、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」ことを使命と捉え、何事にも挑戦し続ける精神や創造性、独創性をもって、社会に役立つ製品とサービスを提供することにより、社会の持続可能な発展に努めることです。

CSR経営の推進と体制

2006年、顧客・従業員・株主・環境・地域社会などステークホルダーに対して、企業活動の透明性を確保し、かつ説明責任を果たす企業としてCSR委員会を設置し、CSR委員会規程でコンプライアンス体制の整備・維持、内部統制に関する報告・改善、品質保証安全管理委員会、個人情報保護委員会、PLD委員会*およびメニコン公正取引管理委員会における課題報告・改善などを定め、コーポレートガバナンスを強化しています。また、国内外グループ各社のすべての従業員一人ひとりが、メニコンのCSR方針を共有・実践し、人にも動物にも環境にも優しい地球企業として、社会に愛される企業を目指すよう努めています。

環境への配慮

国内外の工場新設は環境に配慮しています。2015年、各務原工場は再生可能エネルギー利用により最新の省エネ法に準拠した設計で新設しました。2013年、オランダ工場は断熱ガラスの採用や地下水の利用により、空調用エネルギーの大幅な削減を図りました。また、クールビズ・ウォームビズ対策のユニフォーム着用、「秋の植樹祭」での苗木寄付や育樹活動、売上の一部を「水源滋養林を作る活動」に提供し、水を育む森づくりを続けています。

* Product Liability Defense (製造物責任防衛)委員会

社会への貢献

「目の健康を守る」という信念の下、2001年「月々の定額制でコンタクトレンズを使用していただく」メルスプランという業界の常識を超える新しい販売システムを紹介、コンタクトレンズユーザーの皆様の賛同をいただき、2016年3月現在では116万人の会員数を数える規模となっています。また、日本コンタクトレンズ協会の一員として同協会にさまざまな形で協力、さらに日本医療機器産業連合会をはじめ、その他の関連団体に加盟し、業界の健全な発展に力を尽くしています。

ステークホルダーの皆様とともに

2015年6月に東京証券取引所および名古屋証券取引所に新規上場をいたしました。上場を機に、ステークホルダーである「お客様、社員、取引先、株主、地域社会の皆様」とのコミュニケーションをより一層重視し、人・社会・地球環境の調和を図りながら、安全で高品質なものづくりを通して、グローバルな事業展開を推進し、持続成長可能な社会の実現を目指していく所存です。

皆様方の変わらぬご支援、ご指導よろしくお願い申し上げます。

CSR方針

1. メニコンは、人・社会・地球環境の調和を図り、安全で高品質なものづくりを通して持続成長可能な社会の実現を目指します。
2. メニコンは国内外の法令、定款をはじめとする社会ルールを遵守し、企業倫理を常に向上させ、社会に役立つ事業活動を行います。
3. メニコンはCSRに対する国内外グループ各社の意識向上を図り、従業員一人ひとりが常に高い認識を持って行動すると共に、CSR活動に関する情報開示を行い、各ステークホルダーとの連携強化に努め、利益ある成長を図ります。

エンドユーザーとの関わり エンドユーザーとのコミュニケーションを大切にし、使いやすさ・わかりやすさに配慮した安全な商品・サービスを提供する。

社員との関わり 従業員の人権を尊重すると共に、キャリア開発を支援し、働き甲斐を感じることでできる人事・教育制度と、福利厚生制度を確立・運用することにより、従業員満足度を高めて、グループ組織としてのパフォーマンスを向上させることを追求する。

業界関係者との関わり 事業や各種協会等外部活動を通じ、公正な社会環境を整える支援を積極的に行うことで、広く社会に貢献する。

株主との関わり コンプライアンスとリスクマネジメントの強化および安定した業績により株主満足度を高める。

社会との関わり 環境関連法規(省エネ法)およびその他の同意事項を遵守すると共に、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的な使用を実践する。
— 材料・資材の調達や製品の購入において、開発段階から、より環境負担の少ないものを優先する。
— 事業活動における廃棄物の低減に努める。
— 文化事業を通じ、地域住民や社会に貢献する。

～安全哲学憲章～ Premium Safety

その先の「安全」を目指して

私たちメニコンは
高度管理医療機器を取り扱うメーカーである。
だからこそ、私たちはお客様の眼の「安全」を
最優先に考えたものづくりをしなければならない。

私たちメニコンの考える「安全」とは、
「時代に先駆けて、より高い基準を自ら設定し、
それを越えるべく挑戦し続けることによって
はじめて実現される安全」である。
私たちはひたむきにこの「安全」に
こだわり続けることにより、
お客様と共に驚きと感動を分かち合えると信じる。

私たちメニコンは
研究開発から生産、物流、営業活動を含む
あらゆる企業活動において、
「安全」を一貫して追求する体制を整え、
進化させる努力を決して惜しまない。
これが医療にたずさわる企業の
社会的責任であると考えている。
また、これが「目にたずさわる責任」である。

さらに、私たちメニコンの挑戦はこれに終わらない。
私たち一人ひとりが
「安全」を語る伝道師として夢と誇りを持ち、
新しい「安全」を創造するために不可能と思われる
領域に対しても積極果敢に挑戦し続けていく。

以上が私たちメニコンの「安全哲学」である。

企業スローガン

より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。

経営理念

Values 価値観

何もないところから、新たな価値を生み出すという、誰もやっていないことに、果敢に挑戦すること。

創造〈Creation〉

独創〈Originality〉

挑戦〈Challenge〉

Mission 私たちはどんな企業でありたいか

メニコングループは、コンタクトレンズで培った技術と人で、社会に役立つ商品やサービスを世界に提供し続ける創造型スペシャリスト企業であること。

Vision 私たちが実現する夢 単なる夢で終わらせない夢

すべてのステークホルダーから尊敬され愛される企業の頂点、No1になる。

ステークホルダーに対するMission

- エンドユーザー** パイオニアカンパニーとして、優れた技術で見る喜びと生きる喜びの提供により顧客満足を高め、すべての顧客から永く『エンドユーザー』として利用し続けたい企業と思われること。
- 業界関係者** リーダーカンパニーとして、業界発展への積極的な寄与により外部研究者、得意先や取引先などの協同者満足を高め、すべての業界関係者から永く『パートナー』として関わり続けたい企業と思われること。
- 社員** 人間尊重カンパニーとして、自己実現できる生きがいのある就労環境の整備により従業員満足を高め、すべての従業員から『ファミリー』として働き続けたい企業と思われること。
- 株主** 道德尊重カンパニーとして、遵法精神を貫き、健全な業績により株主満足を高め、すべての株主から永く『サポーター』として応援し続けたい企業と思われること。
- 社会** 地球市民として、すべての生命や環境、すべての文化や歴史に敬意を払い、すべての市民の満足を高め、すべての尊い命から永遠に『良き隣人』と思われ続ける企業であること。

VISION2020

2020年の当社グループのあるべき姿

- 商品開発から顧客サービスまで一貫した優秀なシステム・体制を構築・維持することによって他の追随を許さない商品とサービスを世界中へ提供し、顧客からの絶対的な信頼・支持を得ていること。
- 業界関係者や同業他社との提携・協力についても柔軟な姿勢をもって臨み、健全なグローバル市場を確立し、秩序を維持することによって、エンドユーザーの健康を守っていること。
- コンタクトレンズで培った技術を応用し、創造的かつ独創的な技術で眼科医療分野以外の新規事業に進出し、生命や環境に対しても新しい商品やサービスを提供していること。

コーポレートガバナンス

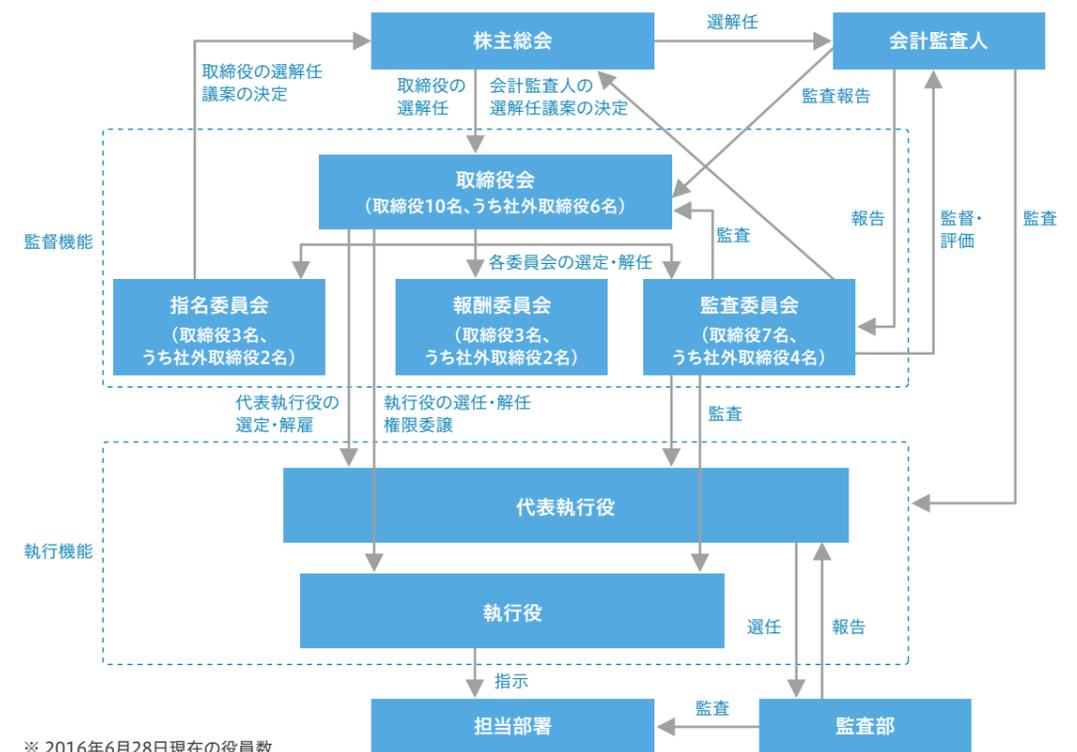
当社は株主、投資家、顧客、従業員など全てのステークホルダーから尊敬され愛される企業を目指し、企業活動を行うことを基本方針のひとつとしています。そして、その実現のためにステークホルダーからの信頼を得ることと、健全な企業経営を重要課題と位置づけ、コーポレートガバナンスの拡充として各施策を講じています。

企業統治の体制の概要

当社は会社法に規定する指名委員会等設置会社であり、取締役10名(うち社外取締役6名)および執行役11名(兼務取締役1名を含む)により構成されています。社外取締役は客観的・大局的に、企業価値の向上という観点から執行役が行う経営の監督ならびに助言を行っています。業務執行および経営監視の仕組みとしては、株主総会において選任された取締役で構成する取締役会が会社の重要な意思決定と執行役の監督を行い、経営を監視し、取締役会により選任された執行役が担当業務ごとに強化された権限により、迅速で効率的な業務執行を実現しています。各委員会(指名委員会、報酬委員会、監査委員会)の委員は、過半数が

社外取締役により構成されています。各委員会の役割として、「指名委員会」は次回の定時株主総会に提出する取締役候補の決定、「監査委員会」は取締役および執行役の職務執行の適法性・妥当性監査と会計監査人選任案の決定、「報酬委員会」は取締役および執行役の報酬制度・報酬金額等の決定を担っています。また、業務執行上の重要案件(取締役会決議事項を除く)については、執行役全員で構成する「業績検討会議」および「執行役会」において審議、決定することとしています。さらに取締役会は「内部統制システム整備の基本方針」を示し、その整備・運用を監視しています。

コーポレートガバナンス体制



内部統制システム

内部統制システムの基本方針

当社は、会社法で定める「執行役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制の整備」に関する基本方針を次の通り定めています。

●基本的な考え方

当社は、業務の適正を確保するために必要な体制（以下、「内部統制システム」という）を、①当社ならびにその子会社からなる企業集団（以下「当社グループ」という）が事業を適正且つ効率的に遂行するために、社内に構築され運用されるシステムおよびプロセスであり、事業目的達成のために積極的に活用すべきものであると認識している。②体制整備の目的は、(a)法令と倫理の遵守、(b)事業の有効性と効率性の確保、(c)資産の保全、(d)財務報告の信頼性確保であるとする。そして、③当社の全ての役員・従業員は、この目的達成に必要な推進体制を、自律性をもって構築運用すると共に、定期的な評価改善を行うことにより実効性の向上に努めるものとする。

(1) 執行役の職務執行が法令、定款に適合することを確保するための体制

- ①執行役が取締役会に報告すべき事項を取締役会規則等で定め、執行役が自ら取締役会で報告する。
- ②監査委員会は執行役の業務執行状況を監査し、定期的に取り締めに報告する。
- ③執行役が負うべき義務を執行役規則で明記し周知徹底を図る。また執行役の任期を1年とすることで、執行体制の最適化に柔軟に対応できるようにする。
- ④常勤取締役が執行上の重要な会議等に出席し、監督的視点から常に執行役の業務執行状況を把握し、必要に応じて助言等を行う。

(2) 執行役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ①文書管理に関する規程を整備し、執行役の職務執行に係る重要な文書等を特定すると共に、その保存期間や管理方法を定め確実な運用を行う。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①リスクに関する意識の浸透、早期発見およびリスク顕在化の未然防止、緊急事態発生時の対応方法を定めた規程、マニュアルを整備し、必要に応じて教育訓練を実施する。
- ②代表執行役をトップとする内部統制システムの統括組織（以下、「内部統制統括組織」という。）を設置し、経営に影響を与えるリスクをマネジメントする。

(4) 執行役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①経営の監督機能（取締役会）と業務執行機能（執行役）を分離し、執行役への大幅な権限移譲を行うことで、業務執行のスピードを向上させる。
- ②執行役の職務分掌、指揮命令系統、決裁権限等に関する規程を整備し、それらの明確化と周知徹底をする。
- ③全執行役で構成する執行役会議を定期的開催し、効率性、有効性、妥当性などの検証を経て、業務執行に関する重要事項を決定する。

(5) 使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- ①従業員に、法令や社会規範の遵守および倫理観の高揚等の意識向上に必要な教育を行うと共に、内部統制システムに関する諸規程やマニュアル等を整備し周知徹底する。
- ②内部監査部門による監査を通じて、内部統制システムの構築・運用状況を評価すると共に、問題の早期発見を図る。
- ③内部通報体制を作りその周知と的確な運用を徹底することで、コンプライアンスの実効性と業務の公正性の向上につなげる。
- ④内部統制システム統括組織で、内部統制システムの構築・運用状況について定期的にマネジメントレビューを行い、取り組むべき課題を抽出し、翌期の経営計画等に反映させることでシステムの改善ならびにレベルの向上につなげる。

(6) 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ①財務報告の信頼性の確保および金融商品取引法の定める内部統制報告書の有効且つ適切な提出のため、財務報告に係る内部統制システムを構築、運用する。
- ②金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制の評価及び監査基準」に準拠し、その有効性を評価する。

(7) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

- ①当社は子会社の管理に関する規程を定め、子会社の管理体制、ならびに子会社の取締役等の職務執行状況に関する報告体制を明確にし、運用を徹底する。
- ②当社は子会社の管理を担当する執行役を定め、各子会社が当該基本方針を踏まえたうえで、各子会社固有の事情（事業内容・規模・形態等）を考慮し、適切な内部統制システムを構築、運用するよう監督することで、子会社の法令遵守や経営の適正性および効率性の向上、経営リスクの管理を行う。
- ③当社の内部統制統括組織は、当社グループの内部統制システムを統括管理し、その構築、運用状況を取締役会に報告する。
- ④当社の監査委員会および内部監査部門が行う内部統制に関する監査は、子会社を監査対象に含めて行うことで、内部統制システムの構築、運用状況を検証、評価する。
- ⑤当社内部通報システムは、子会社もその対象に含め、これを周知徹底し的確に運用することでその実効性を向上させる。

(8) 監査委員会の職務を補助すべき取締役および使用人に関する事項、使用人の執行役からの独立性に関する事項

- ①監査委員会の職務を補助すべき使用人の指名および監査委員会の職務の補助に関する業務指示は監査委員会が行う。
- ②監査委員会は補助使用人に対し直接指揮命令を行う。また補助使用人はその職務遂行の結果報告等を監査委員会に直接行うことで、補助使用人の独立性及び指示の実効性の確保を行う。
- ③補助使用人の人事考課・異動等の人事に関する事項の決定には、監査委員長の同意を得る。

(9) 当社グループの取締役、執行役ならびに使用人等が監査委員会に報告するための体制その他の監査委員会への報告に関する体制、報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- ①監査委員会に報告すべき事項を定めた規程を整備し、当社グループに周知徹底する。また監査委員会へ報告した者が、報告をしたことを理由に不利益な取り扱いを受けない旨を明記し、報告者の保護ならびに実効性の向上を図る。
 - ②当社および子会社の内部通報システムで通報された内容は、全て監査委員会に報告される体制を構築する。
- (10) その他監査委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ①監査委員会、内部監査部門、会計監査人が相互に連携を図り、適切且つ効率的な監査業務を行う。

- ②監査委員会は、取締役会および代表執行役と適宜会合を持ち、監査委員会の職務執行が効率的に行われるための相互認識を深める。
- ③監査委員の職務執行上必要な費用は、監査委員の決裁で使用、又は前払い等を可能とし、決裁規程にその旨を定める。

(11) 反社会的勢力との関係を排除するための体制

- ①反社会的勢力とは一切の関係を持たず、被害を未然に防止し、これらの勢力に対応するために、必要な規程、マニュアル等を整備するとともに、専門家による助言などを得ることで健全な会社運営に努める。
- ②反社会的勢力に適切に対応するため、社内教育、予防訓練を行う。

リスク管理体制

当社は、リスク管理責任者を社長とし、リスク管理の全社的推進とリスク管理に必要な情報の共有化等を図るため、CSR委員会を設置しています。リスクについては、各部門のリスク評価を行い、リスクの回避・低減・移転・受容その他必要な措置を事前に講じています。事故等発生時の対応および事故等の処理後の報告、人命に関わる緊急事態発生時の報告経路、苦情への対応、医薬品医療機器等法その他の関連法規に即した対応等を定めています。また、災害などにより重要業務が中断しないよう事業継続計画（BCP（Business Continuity Plan））を整備しています。

この他に、各分野におけるリスク管理のため、「品質保証安全管理委員会」、「PLD委員会」、「個人情報保護委員会」、「メニコン公正取引管理委員会」を設置しています。

コンプライアンス体制

当社は、コンプライアンスの実践を、経営の重要課題の一つとして位置付け、基本方針として、①法令・定款・社会的ルールの遵守、企業倫理の向上、②社内の公正自由な競争を行うため「メニコン医科向け製品プロモーションコード」に即した行動に努める、③最良の商品およびサービスの提供による顧客の満足度向上、④経営機能の内部統制、⑤違反行為の禁止を定めています。また、国内のグループ会社向けに独自作成の「コンプライアンスガイドブック」を配布し、海外子会社に対してはコンプライアンス規程の整備を通して、グループとしてもコンプライアンスの維持

向上に努めています。

なお、「医療機器業プロモーションコード」を含め、日本医療機器産業連合会で定める「医療機器業界における医療機関等との透明性ガイドライン」および医療機器業公正取引協議会が定める「医療機器業公正競争規約」など、医療機関等との透明性に関する指針を定め、活動しています。



個人情報の保護体制

当社では、お客様および当社に関わる全ての方からお預かりした個人情報を適切に利用し、保護することが事業活動の基本事項であり社会的責任であると考えています。そのため個人情報の保護について細心の注意を払うとともに、当社のサービスを安心してご利用いただくための「個人情報保護方針」を定めるとともに、「プライバシーマーク」を取得し、個人情報を厳重に管理

しています。また、役員を含む全ての従業員に対し、個人情報の保護および管理についての教育を実施し、日常業務における個人情報の適正な取り扱いを徹底しています。

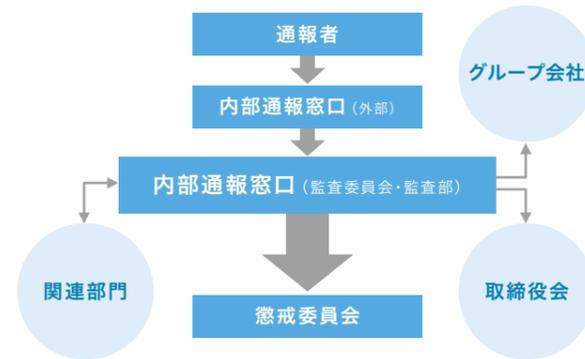


社内個人情報保護教育テキストより

内部通報制度

当社は、グループにおける法令、定款、社内規程および企業倫理を誠実に遵守する公正な経営を実現するために、違反行為を独立した第三者機関を介して通報する制度を導入しています。この制度はメニコン社員だけでなく、グループ各社の社員、派遣社員も利用できます。通報に対しては事実確認のうえ、適切な対応をしています。

※調査は監査委員会(主として役員に対して)および監査部が中心となっており、グループ会社および関連部門はこれに協力する義務を負う。
※違反行為を行っている者が役員(グループ会社含む)の場合は会社およびグループ会社の取締役会にて適切な対応を行う。



品質マネジメントシステム

当社では「安全哲学憲章」を掲げ、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」という企業スローガン(品質方針)の下で、品質の確保および顧客満足を目指して、本社はもとより、Menicon SAS、Menicon Ltd.、Menicon Singapore Pte.Ltd.、メニコネク、Menicon Pharma SAS、NKL Contactlenzen B.V.において、医療機器の品質マネジメントの国際規格であるEN ISO13485を取得しています。EN ISO13485とは、ISO9001をベースに医療機器固有の要求事項を追加した、医療機器の安全性と品質を継続的に確保するための品質マネジメントシステム規格のことです。さらにMenicon SAS、Menicon Pharma SAS、Menicon Ltd.、NKL Contactlenzen B.V.では、ヨーロッパの品質保証規格に適合した商品であることを示すCEマークも取得し、国内外に向けて確かな品質をお届けしています。

この品質マネジメントシステムが引き続き適切で、妥当で、かつ有効であることを確実にするために、品質マネジメントシステ

ムをレビューする会議を年2回開催しています。このレビューでは、お客様からのフィードバックやリスクマネジメントを踏まえた製品の継続的評価、品質方針および品質目標を含む品質マネジメントシステムの変更の必要性の評価を行っています。

また、製造販売後安全管理に関する業務に従事する者に対する社内教育訓練を定期的に行い、お客様を含む市場からのフィードバック情報を適切に収集、評価し、製品の安全確保に努めています。



調達購買活動

当社は、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的な使用を実践し、使いやすさ・わかりやすさに配慮した安全な商品・サービスを提供していきたいと考えています。取引先の皆様に対して公平な機会を設け、公正な評価を行い、当社が求める条件に見合う優

れた部材等を調達しています。調達購買活動を通じて社会に貢献し、法令を遵守すると共に、地球環境に配慮した取引を行っています。

事業概要

会社概要

会社名 株式会社メニコン
本社所在地 〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号
創業 1951年2月
設立 1957年7月
代表者名 代表執行役社長 田中英成
資本金 33億2,944万5千円(2016年3月31日時点)
従業員数 1,153名(2016年3月31日時点)
事業所数 営業所15、販売店45、研究所・工場4、カスタマーセンター1、物流センター4(2016年3月31日時点)

事業紹介

コンタクトレンズ事業

安全性へのこだわりと、快適さや便利さを備えたコンタクトレンズの創造と進化を追求するメイン事業です。そのためにお客様の声に耳を傾け、お客様の目線で発想し、製品とサービスの領域を広げ、新たなニーズにお応えすることが私たちの使命と認識しています。「視力の提供を通じ、信頼できるパートナーとしてお客様の人生と関わっていく」想いから、お客様の瞳の未来を見つめ、生涯にわたって一人ひとりにふさわしい「見える喜び」をお届けしています。



動物医療事業

家族の一員であるペットの瞳は、飼い主とのコミュニケーションに欠かせない感覚器官です。同事業では、人間の眼科分野におけるコンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培った技術をベースに、動物の眼科医療に応用した犬用眼内レンズ「メニわんレンズ」や、犬猫用の「メニわん治療用コンタクトレンズ」を開発・発売し、獣医師とともに日本の動物眼科医療の発展に貢献しています。



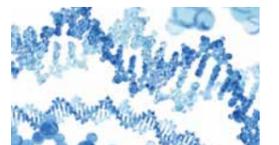
環境バイオ事業

コンタクトレンズケア用品の開発で培った技術を環境バイオ事業分野に活用しています。酵素技術を活かした稲わら分解促進材「アグリ革命」の開発をはじめ、家畜排泄物を迅速にたい肥化する「resQ45」、鶏の高い産卵率を維持するための「有機酸入りカルシウム強化剤」など、メニコン独自の学術的な研究開発アプローチで、環境バイオ事業の可能性を大きく広げています。



ライフサイエンス事業

60年以上にわたるコンタクトレンズ事業で培った開発力や技術力、そして最も目を向けなくてはならない「安全性へのこだわり」を、ライフサイエンス領域である生殖補助医療、基礎研究、先端医療など、眼科医療以外の分野への展開によって新しい製品・サービスを提供しています。

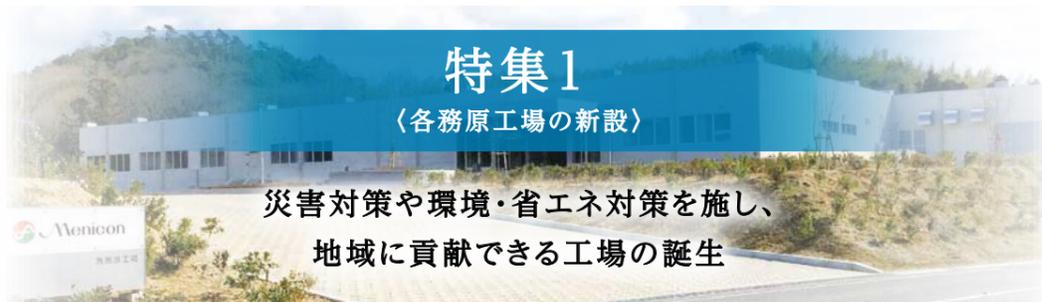


グループ会社紹介

- 株式会社メニコネク
- 株式会社メニコンビジネスアシスト
- 株式会社メニワ
- 株式会社ダブリュ・アイ・システム
- 富士コンタクト株式会社
- 株式会社アルファコーポレーション
- Menicon Holdings B.V.
- NKL Contactlenzen B.V.
- Menicon SAS
- Menicon Pharma SAS
- Menicon GmbH
- Menicon Ltd.
- Menicon Espana S.L.
- Menicon America, Inc.
- The Lagado Corporation
- Menicon Singapore Pte. Ltd.
- Menicon Singapore Sales Pte. Ltd.
- Menicon Australia Pty Ltd
- Menicon Korea Co., Ltd.
- Wenzhou FocuSee Vision Care Technologies Co., Ltd.
- First Glory Holdings Ltd.

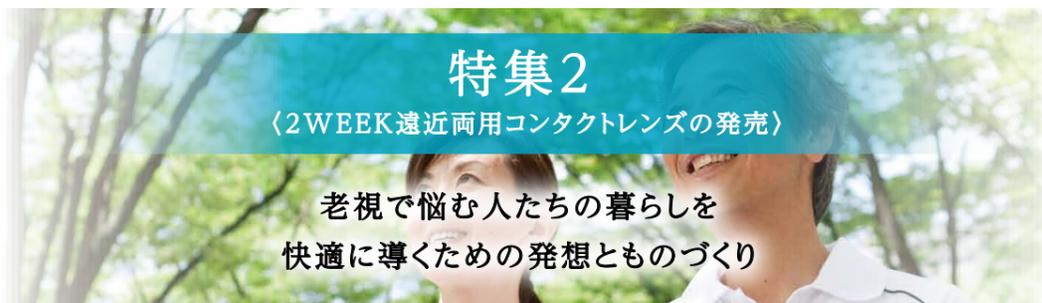
新たな生活スタイルを 提供していく メニコンのチャレンジ

世代や性別の異なる一人ひとりに対して、
私たちメニコンの事業が安全で快適な生活スタイルを提供し続けること。
この不変なテーマと向き合いながら、さまざまな課題にチャレンジしていくことが
メニコンの事業活動の大きな糧となります。
一人ひとりのQOL(Quality of Life:生活の質)を向上させていく視点で、
メニコンは新しい価値の創出に力を注いでいきます。



特集1 〈各務原工場の新設〉

災害対策や環境・省エネ対策を施し、
地域に貢献できる工場の誕生



特集2 〈2WEEK遠近両用コンタクトレンズの発売〉

老視で悩む人たちの暮らしを
快適に導くための発想とものづくり



特集3 〈ライフサイエンス事業の強化〉

少子化対策や
健康な身体づくりに寄与するサプリメント開発



特集1 災害時でも生産能力を維持できる立地を選定し、 地域環境に配慮した設備を整えた各務原工場

災害対策を施した工場で、 安定した製品供給を目標に

岐阜県各務原市テクノプラザに1日使い捨てコンタクトレンズ製造工場として各務原工場を新設しました。1日使い捨てコンタクトレンズ市場は日本市場のみならず、世界市場においても拡大傾向にあり、1日使い捨てコンタクトレンズ市場におけるシェア拡大を図っていく拠点として位置づけられる工場です。

立地に関しては、メニコン技術研究所に近く、かつ自然災害による影響が最小となるように考慮して、各務原市と連携をして選定しました。周囲に山がない高台は、洪水や土砂災害の不安を解消し、建築物の耐震施工をはじめ、非常時の特定エリア送電システムやライフラインのリスク回避、さらには敷地内には広大な駐車スペースを完備して、緊急時には地域の皆様の避難場所として提供できるように設計しています。



高度管理医療機器工場として 優れた安全品質の実現へ

各務原工場は、国産初のシリコーンハイドロゲルの1日使い捨てコンタクトレンズを生産しています。シリコーンハイドロゲルという素材は、瞳の健康にとって大切な酸素を多く通す素材でレンズ愛用者の生活スタイルに合わせて開発した製品です。初年度で4,000万枚、早期で年2億枚の生産を目指していく計画です。そのため、原材料の受け入れから加工、製品出荷に至るまで汚染や混同が防止できるように一筆書きでコンパクトな動線設計とし、高度管理医療機器工場として高い品

質基準を設定した環境下で生産体制を構築しました。さらに省エネ・環境に配慮した工場として、きめ細かなエネルギー消費低減を実現させるために生産設備に関わる消費電力は設備ごと、生産工程ごとに細分化された電力監視を備え、「見える化」システムにて実現。温室効果ガスの排出抑制や生産コストの削減にも貢献しています。

小学生の職場体験、 寺子屋として地域に貢献

各務原市が主催する「ものづくり企業見学会」の一環として小学生高学年を対象にメニコン技術研究所および各務原工場の見学会を開催しました。これは子供たちに夢や目標を持って今後成長できる機会を作ろうと各務原市が企画したものです。実際にコンタクトレンズに触れたり、コンタクトレンズが完成するまでの工程を見学していただきました。さらにコンタクトレンズで培ってきた技術を応用してメニコンオリジナルのコマを使って対戦してもらい、遊びを通して当社のものづくりの思いをお伝えしました。子供たちからは、「コンタクトはしたことないけどお母さんがしています。もっと知りたい!」と思って参加しました。すごく清潔で貴重なものを自分の目で見るのができてよかった」などの感想をいただきました。



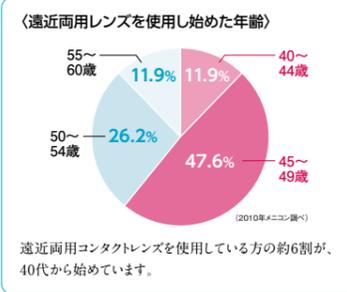


特集2

老視人口の増加を見込んで 症状別に対応できる商品戦略でシェアを伸ばす

早期化する老視市場に合った商品開発

メニコンは、2015年12月に2週間定期交換型の遠近両用コンタクトレンズ「2WEEKメニコンプレミオ遠近両用」を発売しました。このレンズには目の負担を少なくする酸素の透過性に優れたシリコーンハイドロゲル素材を使用し、加齢によって生じやすくなる目の乾燥感をやわらげる利点もあります。今回の商品開発に至る市場調査では、自社の既存商品が老視の初期にあたる40歳以上50歳前の対象者をカバーしきれていない点や、競合他社との商品ラインアップの違いによって売り上げが伸び悩んでいる課題などが明らかになりました。老視市場においてメガネからコンタクトレンズに移行する層もあり、高齢化社会を支えるメニコンの主力商品となる遠近両用レンズの開発に向けてプロジェクトはスタートしました。



快適な毎日を提供するという指針

プロジェクトの戦略は、老視を自覚し始める40代へのアプローチを強化することです。対象者は、手元の視界が見えづらくなったり、それによってこれまで普通にできていた読書や裁縫などに不自由さを感じながら見えづらい環境に合わせて日常生活を送っている人たちです。見えづらくなったことで不便な生活を過ごしている人たちに、老視になる以前の快適な日々を取り戻し



ていただきたいという思い。これがメニコンの「遠近両用コンタクトレンズ」開発への大きなモチベーションとなりました。そし

て、これをかなえるため、老視の初期症状の人に最適な見え方を提供できるLOW(低加入度)デザインのレンズ開発に着手。近・遠の距離も不都合なく見えることに加え、中距離の視界もバランス良く見えるコンタクトレンズの商品化が進められました。

2種類の加入度数レンズを市場に

今後、増えてくるであろう老視人口のマーケットにおいて、老視初期の対象者とすでに老視の症状が進んでいる対象者を囲い込んでいく販売戦略として、メニコンはLOW(低加入度)だけではなく、HIGH(高加入度)デザインのレンズ開発も同時に進行させました。こうして2種類の遠近両用コンタクトレンズを用意することで、対象者の症状にきめ細かく応えられる「見え方」を提供できるレンズを採用しています。そのための開発工夫として、LOWデザインとHIGHデザインはそれぞれ異なる光学デザインで設計するという競合他社に先んじた戦略を取り入れました。発売後のお客様や販売店からの評価も高く、老視市場シェアの拡大を目標に全社一丸となって努めています。



2WEEKメニコンプレミオ
遠近両用

VOICE

直営店 メニコン青森
田口 信好

商品の良さをきめ細かに伝えたい

メルス会員様の40%以上が40代以上という当店において、プレミオ遠近はなくてはならない商材です。現に、見え方に感動されてメルスプランの退会を踏み止まった方もいれば、知人からプレミオ遠近を勧められて、50代にして初めてコンタクトレンズに挑戦された方もいらっしゃいます。プレミオ遠近は対面販売でしかできない、きめ細かなカウンセリングが求められる商品だと捉えております。



特集3

新規事業として、 不妊治療や健康をサポートするサプリメントを開発

安全・安心のものづくりを展開

コンタクトレンズは高度管理医療機器で、その安全性は必須です。それを支える材料開発や加工技術、品質管理を他分野でも活用することで、安心して使用できる製品を提供しています。新規事業分野でも安全・安心を第一としてもつくりを行っています。

生殖補助医療では微小流体技術を応用した運動良好精子を選別する装置「スパームソータ クオリス」を開発し、精子の穏やかな回収手法を提案しました。一方で、日本は高齢妊娠が多く、不妊の割合も増加しています。妊娠するためには、肥満でも痩せすぎでも難しく、健康な身体をつくる必要があります。不妊治療患者の皆様へのニーズと医師の要請を受けて妊娠しやすい身体作りのサプリメントを開発しました。



不妊治療患者向けサプリメント

「プレグナ」「Asadaサプリ」「ブラリエ」は、いずれも不妊治療患者向けのサプリメントです。それぞれ著名な医師の監修を得ており、購入はクリニックの窓口あるいは提携先のウェブサイト限定しています。妊娠するためには、健康な身体をつくる必要があります。ただ、現実には、カロリーを気にするあまり栄養素の不足の方が多く、サプリメントを上手に使って不足分を補ってもらいたくて配合を考えました。まず、ビタミン類やミネラル類などの不足成分を補い、加えて抗酸化成分や代謝活性化を促す成分を活用することもできま



す。サプリメントの取り扱いクリニックは50施設を超え、患者の皆様のニーズと医師の推奨に応えられる製品を供給し続けます。

『食べるヨガ』サプリメントの開発

「ヨガをしたように身体と心をリラックス」をコンセプトとしたサプリメントを『食べるヨガ』ブランドとして2015年に発売しました。「ラフェリアイ」「ルナリズム」の2種で、主成分は「ラクトフェリン」というタンパク質です。これは、初乳に高濃度に含まれており、赤ちゃんが母乳を飲んで安らかなのは、ラクトフェリンに因るのではないかとされています。涙の中にも多く、外部から侵入する微生物から眼を護っています。腸まで届くようにコーティングすることにより整腸作用、鎮痛作用、鎮静作用等が認められ、ストレスに曝される多くの方にとって有用なサポートが望めます。男女ともにライフステージが移っても活用し続けられるサプリメントとして育成・定着させたいと考えています。



VOICE

新規事業本部 企画管理部
李明萱

患者さんをサポートしたい

不妊治療患者向けのサプリメント「ブラリエ」の製品化を担当しています。ボトルには青いバラを配しました。花ことばは、「夢、かなう」。一人でも多くの方に活用いただき、赤ちゃんを抱いていただきたいと考えています。今後もお役に立つ製品を提供していきます。



エンドユーザーとの関わり

安全で快適なコンタクトライフをサポートできるよう、お客様とのコミュニケーションを重視した商品やサービスを提供し、常に高い顧客満足度をかなえる信頼される企業を目指していきます。

直営販売店でのサポート、新ブランド「Miruショップ」

「コンタクトレンズ選びを、もっと楽しく。お客様の毎日に、うれしさを。」をコンセプトに、よりお客様に喜んでいただけるコンタクトレンズショップになることを目指して、新しいショップブランド「Miru」を立ち上げました。「Miru」は、メニコン商品に拘らず、お客様の見える喜びを追求するコンタクトレンズショップとして二つのブランド「Miru+」「Menicon Miru」として展開しています。

近年「度なし」のおしゃれ用カラーコンタクトレンズが若い女



性を中心に人気となっていますが、眼科医療機関を受診せず購入している事例や定期検査を全く受けていない事例による眼障害がインターネット販売での購入者に多いと報告されています。「Miru+」では、メニコン独自の安全哲学に基づき、コンタクトレンズメーカーとしての知識と経験を活かして、お客様に正しいコンタクトレンズの取扱方法と適正使用情報を提供し、お客様の目の健康を守っていきたくと考えています。



お問い合わせやご相談の安心窓口「お客様センター」

メニコンでは、お客様に正しく安全にコンタクトレンズをご使用いただくために、レンズやケア用品に関するお問い合わせをはじめ、さまざまな疑問や不安、お問い合わせのご相談窓口として「お客様センター」(メニコール0120-103-109)を設置しています。電話でのお問い合わせは月平均約2,200件、メールでは月平均約400件に対応しています。的確かつ迅速にお客様のニーズに応えられるよう、幅広い知識が要求されるスタッフの教育に力を注ぐとともに、最先端のオペレーティングシステムを導入して、サービス品質の向上に努めています。このほか、メルスプラン116万人の会員様や加盟施設との窓口である「メルスセンター(会員専用ダイヤル)」を設置し、いつでも安心してご利用いただける体制を整えています。



社員との関わり

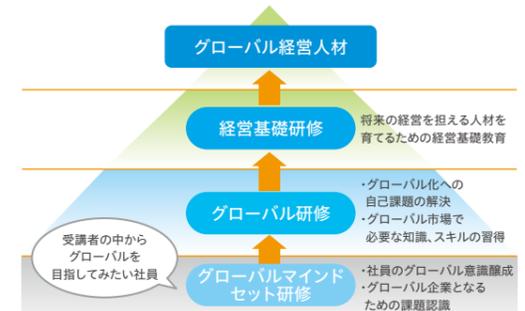
仕事や職場の人間関係を通じて、たゆまない成長ができる会社環境であること。主体性を活かした人材育成をはじめ、心身ともにすこやかに働ける、活力のある職場づくりに取り組んでいます。

グローバル戦略を見すえた人材育成制度

新しい商品・サービスを全世界に広げ、すべてのステークホルダーから信頼され愛される企業を目指して、当社は「グローバル経営人材育成」に向けた体系的な研修を導入しています。グローバル意識の醸成や課題を認識する「グローバルマインドセット研修」を起点に、ボーダレスな活躍を志向する社員を対象に具体的なスキルや問題解決力を養う「グローバル研修」、将来の経営幹部を育てる「経営基礎研修」の3段階で育成を図ります。併せて、階層別の「新入社員研修」「企画職2年目研修」「昇格者研修」「新任管理者研修」「新任店長・所長・課長研修」で、個々の成長や自己啓発を支援する機会を設けています。

グローバル経営人材育成

ボーダレス感覚を備え、経営を担うことのできる若年層人材を育成する。



コンタクトレンズのプロを育成する独自のアドバイザー資格制度「PAL(パル)」

メニコンは2002年より独自のアドバイザー資格制度「PAL®」を導入し、①商品の品質を顧客に正しく確実に伝える力 ②高付加価値化に対応できる力 ③習得した知識と技術を活用できる力を養成し、「創造型スペシャリスト」の育成に力を入れています。全新入社員必須の「エレメント」に加え、「スーパー」「ハイパー」の3段階からなる試験は800名近くの受験者を数え、社員間での自主的な対策勉強会も活発です。専門知識を網羅したテキストは、業務に直結したバイブル的存在としても活用されています。さらに、スーパーおよびハイパー保持者はコンタクトレンズのプロフェッショナルとしての自覚を持ち続けられるように名刺に保

持資格を表示するなど、社員一人ひとりが成長する企業風土をつくりあげています。

※Menicon Products Adviser License Systemの略称



心身の健康維持をめざし健康サポート体制を充実

当社では高度管理医療機器であるコンタクトレンズを扱う企業として、従業員も健康に対して高い意識を持ち、良いコンディションで仕事に打ち込めるよう、さまざまな支援体制を整えています。2010年からは「禁煙外来治療補助金制度」を導入。社内通達やポスター掲示などを通して禁煙を呼びかけた結果、2015年度の社内アンケート調査では禁煙を実現した従業員は2割を超え、タバコを吸わない従業員は8割強となりました。また、業務上お客様や医療関係者と接する機会が多いことから、インフルエンザ予防接種についても全額負担制度を設けています。さらに

2015年から国の労働安全衛生法によって義務づけられた年1回のストレスチェックも、当社ではそれ以前からいち早く実施を開始。家族も相談できる「こころの電話相談」ホットラインなどメンタルサポート制度の充実も図り、心身ともにすこやかな毎日を応援しています。



業界関係者との関わり

コンタクトレンズのリーディングカンパニーにふさわしい活動として得意先や取引先との関係を築きながら、業界の発展に寄与していきます。

メニコンの方針と意識の共有を図る交流の場「サプライヤー会」

当社が常に製品の品質向上を図り、安定的な供給を続けるためには、原材料メーカーや設備メーカー、さらには広告、ITなどの幅広い業種のサプライヤーの存在を抜きにしては語れません。サプライヤーとの信頼関係をより強固にし、当社の購買方針や取り組みをご理解いただくために、2013年度より開催しているのが主要サプライヤーに参加いただく「MenioClub(メニオクラブ)」です。今年も約100社の取引先企業の皆様を「HITOMIホール」にご招待し、代表執行役員中社長より感謝の意を伝えるとともに、ミニコンサートを開催しました。その後、懇親会を通じて、当社の執行役をはじめサプライヤー同士で活発な情報交換

が行われました。刻々と変わる消費者ニーズや業界動向、各社の取り組みなどを共有できる場として参加企業の皆様にも好評をいただいています。当社を軸に共存共栄の絆を広げ、業界全体の活性化につながる機会へと発展させています。



業界を支える人材育成に向けてコンタクトレンズスクールを開校

当社では安全哲学に基づいた人材育成を全国の販売店にも広げべく、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の5か所の研修センターにて社外研修を実施しています。研修はコンタクトレンズについての知識・技術および接客マナーの2本柱で構成され、定期開講のほか、要望に応じて出張講義も行います。また、全国初の試みとして、一般の学生や既卒者を対象とした「メニコン コンタクトレンズ スクール」を2013年より名古屋でスタート。これは就職支援型の夜間スクールであり、眼の安全を最優先に考えた行動のできる人材育成を目的としています。2015年からは福岡でも開校し、少人数制の指導のもと修了時には「コンタクトレンズ

アドバイザー」認定証を授与、2015年度の就職決定率は100%でした。修了生は販売店でコンタクトレンズの正しい使い方をユーザーに伝えるアドバイザーとして活躍しており、スクールを通じた眼の安全に対する取り組みが高く評価されています。



コンタクトレンズを安全に使用するための普及活動を展開

当社が加盟する(一社)日本コンタクトレンズ協会は1958年に発足し、2016年4月現在、コンタクトレンズおよびケア用品関連の製造販売業、製造業、卸販売業を営む正会員36社および賛助会員33社で構成されている団体です。同協会では行政、医会、学会とも連携を図り、最新情報の提供、勉強会、説明会、展示会などのさまざまな活動が行われています。また、正しい使用方法を呼びかける安全啓発活動、営業所管理者に義務づけられている「継続的研修」の開催、ケア用品の安全自主基準を設け、適合した製品に「適合マーク」を発行、メーカーの枠を超えたオンライ

ン受発注システムの運営など幅広い活動を展開しています。当社もコンタクトレンズのパイオニアとして同協会にさまざまな形で協力。さらに(一社)日本医療機器産業連合会をはじめ、その他の関連団体にも加盟し、業界の健全な発展に力を尽くしています。



株主との関わり

株主・投資家の皆様の期待と信頼に応えていくため、健全な企業経営と情報開示を行いながら、各種説明会も定期的を開催しています。

メニコンは東証1部、名証1部に新規上場、さらなる飛躍に向けてスタート

2015年6月25日に東京証券取引所市場第一部、名古屋証券取引所市場第一部へ新規上場いたしました。さらなる飛躍に向けて、新たにスタートいたします。

メニコンは日本初の角膜コンタクトレンズを開発して以来、コンタクトレンズのパイオニア企業として常に新素材・新デザインの開発、製造技術の向上、生産・品質管理体制の整備を進め、業界をリードし続けてまいりました。近年のコンタクトレンズ市場におきましては、1日使い捨てコンタクトレンズ、2週間交換型コンタクトレンズのニーズが高まっておりますので、メニコンにおいても製品ラインアップの充実を図っております。

日本と同様にグローバルでも使い捨てコンタクトレンズ市場は拡大しており、競争が激しくなっております。さらなる事業の成長のためには、グローバルで展開できる次期戦略製品の開発や量産設備への投資が必要であると考えており、機動的な経営判断を行うためにも株式を上場いたしました。

このたびの新規上場時に、1日使い捨てコンタクトレンズの新製品を市場に投入するため、調達資金を各務原工場へ投資しました。今後も皆様により良い製品、サービスをお届けするため、さらなる製品開発や量産設備への投資を行ってまいります。そして、日本のみならず、グローバルでの製品展開、シェア拡大を図ってまいります。



末永く応援していただくために、個人投資家向け説明会を開催

メニコンは投資家・株主の皆様との対話を通じて、皆様に事業に関する理解を深めていただくため、投資家説明会を開催しています。2016年3月期におきましては、東京、名古屋、大阪にて個人投資家説明会を開催しました。説明会では投資家、株主の皆様へコンタクトレンズ業界の現状と将来性について、メニコンのビジョン、成長戦略を説明させていただきました。今後も継続して説明会を開催し、積極的に対話の機会をつくってまいります。株主の皆様へ末永く「サポーター」として応援いただくために、透明性の高い、事業内容の開示を目指してまいります。



社会との関わり [環境への貢献活動]

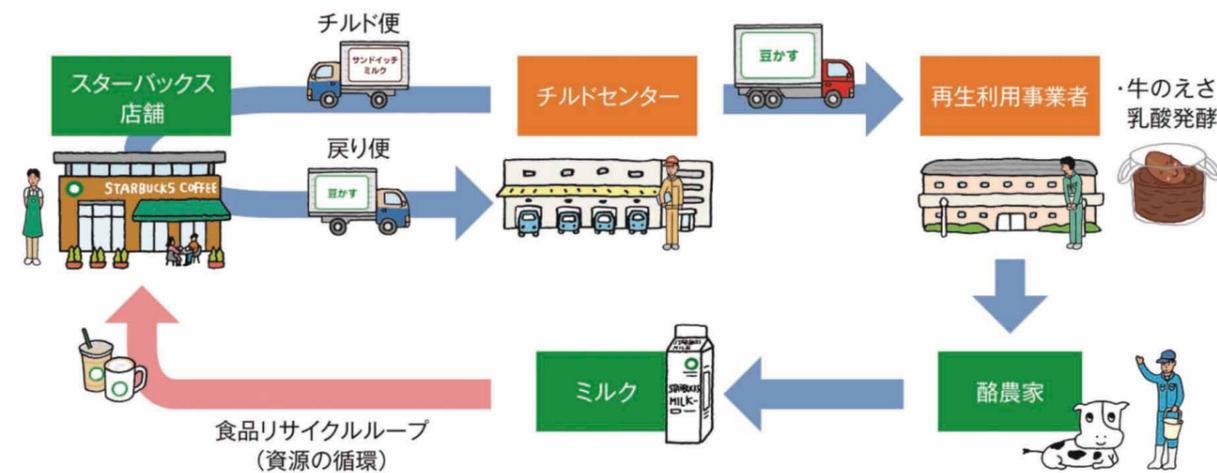
コンタクトレンズの研究を追究することで見えてくる新しい発想と技術への取り組み。
環境保護や保全活動を通して企業価値の向上に努めていくことで、私たちの未来を切り拓いていきます。

食品リサイクルループにメニコンの発酵促進技術を提供

有効な食品リサイクル手法が見出されていなかったコーヒーの豆粕をエネルギー利用の少ない回収手法と乳酸発酵技術によって、環境負荷の低減や持続的な循環型社会の形成を目指す活動を行っています。メニコンは、スターバックス コーヒー ジャパン株式会社とともに取り組む「食品リサイクルループ」において、コーヒー豆粕を「牛のえさ」として再利用、飼料化する技術監修を実施しています。

これまで当社は、環境エコ事業として稲わら分解促進材や畜ふんの堆肥化促進材などの開発に取り組んできましたが、これまでに培った発酵促進技術を応用し、スターバックスのコーヒー豆かすを各店から衛生的に回収し乳酸発酵させることで長期保存と飼料としての利用を可能にする技術を確立、実用化に至りました。

コーヒー豆かすリサイクルの流れ

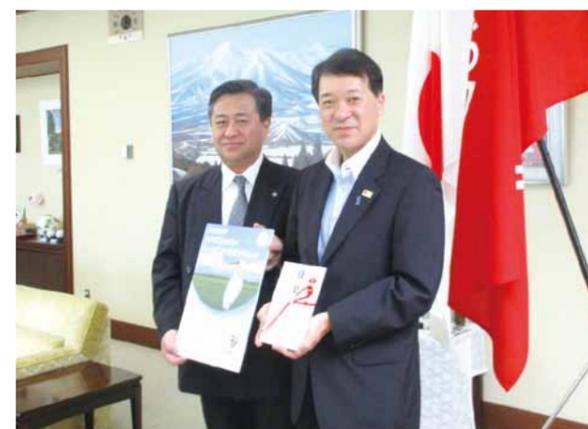


トキの野生復帰を支援する「トキ保護募金」に寄付金を贈呈

コンタクトレンズケア用品の研究から派生した技術を、農業を通じて環境分野に活用した製品が2005年発売の稲わら分解促進剤「アグリ革命」です。これは、生き物が住みやすいようにするため冬季も田んぼに水をはった状態にすることができ、年間を通じてトキの過ごしやすい環境をつくり出すことができます。

2011年には「アグリ革命」の売上の一部をトキ保護基金に寄付する活動を開始し、以来毎年、新潟県庁および佐渡市役所を訪問し寄付金の贈呈を行っています。2015年は、10月2日に佐渡市役所に、10月14日に新潟県庁を訪問し、寄付金の贈呈をさせていただきました。

●新潟県トキ保護募金:30万円 ●佐渡市トキ保護募金:20万円



犬の眼科医療貢献 メニワンEye中国政府での承認取得

メニワンは犬用の栄養補助食品「メニワンEye」が中国政府の承認を取得し、2015年9月から2020年9月までの有効期間で登録されました。中国政府のこうした登録制度は外国製品の審査が厳しく、日本製の動物用サプリメントとしては初めての承認となります。

これまで「メニワンEye」はテストマーケティングとして中国市場でも一部流通していましたが、中国政府から公式に承認を

受けたことにより、獣医師向けに正規の販売チャンネルが開拓できました。メニワンでは眼科領域を中心とした動物医療分野において、人だけでなくペットに対しても「目に携わる責任」を果たしていくことにより、人間と動物が共に健康に生活できる環境づくりに貢献しています。



クールビズ・ウォームビズのユニフォーム着用による省エネの推進へ

東日本大震災発生後の2011年より、夏季は業務上着用が難しい工場や一部の関連会社を除き、パートやアルバイト、派遣社員を含む国内の全グループ社員にポロシャツを支給しています。就業中は全員がユニフォームとして着用し、冬季にはソフトで保温効果の高い機能性繊維を使用した統一ジャケットを着用するなど、全社をあげてクールビズ・ウォームビズを推進。省エネ・節

電、震災復興への継続的な意識づくりに努めています。



エコグリーン企画として、苗木の寄付や植樹～育樹活動に参加

人にも動物にも環境にも優しい地球企業を目指し、当社ではさまざまなエコ活動に取り組んでいます。地球に緑を増やしてCO₂を削減し、酸素を増やす活動として名古屋市戸田川緑地における秋の植樹祭に社員が参加し、森づくりに必要な苗木の植樹や間伐による育樹を行っています。また、ソフトコンタクトレンズ用ケア用品エピカコールドシリーズの売上の一部を、水源涵養林を作る活動「メニコン×Present Tree in 飛騨高山」に活か

すなど、「水を育む森づくり」を進めています。



生活しやすい環境づくりを目指して禁煙運動を推進

メニコンは高度管理医療機器メーカーとして、社員をはじめ、取引先や地域社会の皆様にも禁煙運動を推進しています。喫煙者は加齢黄斑変性症を発症しやすいことも確認されています。目に携わる企業として禁煙セミナーの開催や喫煙に関する各種事例紹介、地域の禁煙活動への積極的な参加など、今後も地域

の皆様と共に住みやすい環境づくりができるように努めてまいります。



社会との関わり [地域社会への文化活動]

地域社会の一員として、地域の皆様との交流を深めていくことも私たちの願いです。芸術や文化、スポーツを通じてさまざまな感動や夢を与える支援を行っています。

HITOMIホールでクラシックマラソンコンサートを開催

2016年1月に開催された「新春クラシックマラソンコンサート2016(New Year Classic Marathon Concert 2016)」に特別協賛いたしました。小学生から大学院生までの学生を募集し、リレー式に演奏していただくマラソンコンサートです。音楽家を目指す若い人たちの可能性を広げ、演奏の場を提供することで、夢にチャレンジする若者を応援しました。当日は34名の学生が参加し、来場者にピアノ、管弦楽器、声楽によるフレッシュな音楽を届けるとともに地域貢献の一助となる新しい形のコンサートが開催されました。



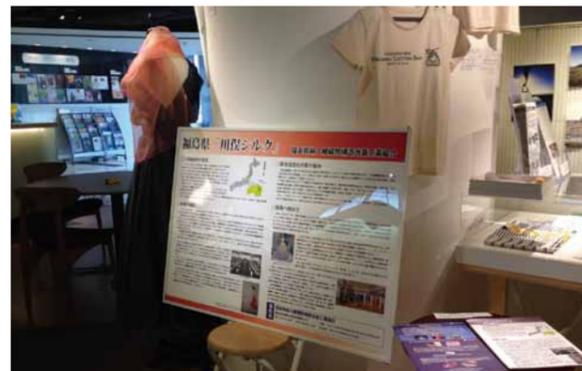
視る素晴らしさを伝えるスーパーコンサート～HITOMIホールバージョン～

メニコンでは「視ること」の素晴らしさを多くの方にお届けするために目で音楽を楽しむことができるよう、毎年スーパーコンサートを開催しています。2015年5月は、スーパーコンサート～HITOMIホールバージョン～として、ピアニストの三輪郁さんによるコンサートがHITOMIホールで開催されました。モーツァルト、シューベルト、バッハなどのプログラムを「楽都ウィーンの薫りを運ぶピアニスト」と呼ばれる三輪さんならではの魅力あふれる演奏で来場者を楽しませていました。



風化させることなく継続させていく、東日本大震災の復興支援活動

2011年よりメニコン本社にある文化施設「HITOMIホール」と「ギャラリーMenio」では東日本大震災の復興支援活動としてさまざまなイベントを開催、協賛しています。2015年は、地元名古屋で活躍する女性が福島県南相馬市で震災に遭われた方を主人公にしたドキュメンタリー映画の上映や福島県にゆかりのある、高村光太郎と智恵子の「智恵子抄」をテーマにしたダンスやピアノ・朗読を組み合わせたショーなどを開催しました。また、前年に引き続き、福島の南相馬のNPO法人による「みんなの写真展」も行いました。



スポーツビジョンセミナーと中西哲生氏によるサッカー教室を実施

震災復興支援活動の一環として、福島県相馬市・双葉地区のスポーツ少年団の小学生100名を対象に、スポーツビジョンセミナーとサッカー教室を実施しました。相馬復興交流支援センターで「スポーツビジョン」をテーマに、メニコンは目の基礎知識やサッカーなどのスポーツをする上で大切な見る能力について解説をしました。中西哲生さんに視線を可視化する新しい装置(アイトラッカー)を装着していただき、プロ選手がパスやシュートをする時に「どのタイミングで」どこを見るのかを、実際の視

線を動画で見てもらいながら、わかりやすく説明していただきました。視力とスポーツの重要性について改めてお伝えすることで、目の健康について考える機会となりました。



次世代の名選手が参加する大会として注目を集めるメニコンカップ

サッカー選手を目指す子どもたちの夢を応援する一助として、1995年から日本クラブユースサッカーの東西対抗戦(U-15)「メニコンカップ」に特別協賛しています。2015年9月13日にパロマ瑞穂ラグビー場で開催され、15歳以下の有力選手が集結するオールスター戦として8,143人の観客が集まりました。また、メニコンカップでは試合の他にさまざまな取り組みが行われています。その一つがメニコンボランティアスタッフによる募金活動で、募金額26,031円を福島県相馬市光陽サッカー場に芝生の種に換えてお送りしました。今回は大会史上初の試みでニコニコ生放送での中継も行われ、23,887人の視聴者数を数えるなど大いに盛り上がりました。



目の愛護デーに絵はがきコンテストを実施

メニコンは“目を大切にする意識”や“目に対する思いやり”を、多くの方に呼びかけるため、2004年から毎年10月10日の「目の愛護デー」に絵はがきコンテストを実施しています。2015年度は「わたしの夢」をテーマに作品を募集し、素晴らしい作品が数多く寄せられました。審査にはグラフィックデザイナー・岡本滋夫先生、メニコン代表執行役社長の田中英成、目の愛護デー実行委員会が行い、インターネットによる一般投票も実施して受賞作品を決定しました。目に携わる企業として、今後も啓発活動を続けてまいります。



